

物価指数研究会（第25回）議事概要

- 1 日 時 令和6年11月15日（金） 13:00～15:10
- 2 場 所 総務省第二庁舎4階特別会議室及びWEB会議形式
- 3 議 題 (1) 2025年基準改定に係るモデル式の検討について
(2) その他
- 4 出席者 (構成員等) 西郷座長、會田構成員、阿部構成員、樋田構成員、元山構成員、
美添審議協力者
(統計局) 永島統計調査部長、小松調査企画課長、赤谷物価統計室長ほか

5 配布資料

- 書類番号1-1 指数作成にモデル式を用いる品目（モデル品目）について（案）
- 書類番号1-2 2025年基準改定に係るモデル品目の検討内容（案）
- 書類番号2-1 2025年基準における「カーリース」指数の作成方法（案）
- 書類番号2-2 2025年基準における「通信教育」指数の作成方法（案）
- 書類番号2-3 2025年基準における「ペット保険料」指数の作成方法（案）
- 書類番号2-4 2025年基準における「資格試験」指数の作成方法（案）
- 書類番号3 「プリンタ用インク」及び「メモリーカード」の指数作成方法について（案）
- 参考1 消費者物価指数 2025年基準改定スケジュール（案）
- 参考2 消費者物価指数の基準改定に伴う小売物価統計調査品目の改定等について（案）

6 主な意見等

議題1 2025年基準改定に係るモデル式の検討について
(2025年基準における追加品目指数の作成方法（案）)

- モデル品目の計算では、平均価格を計算した上で、基準時からの乖離を計算する場合と基準時からの乖離を計算してから集計する方法の二種類がある。前者の場合、平均価格を計算する際に数量をウェイトとして用いるのは自然だが、後者の場合は、数量を用いてしまうと、単価が低くて数量が多い商品の変化率を重視し、数量が少ない商品の変化率は軽視されることになるので、金額ベースのウェイトを使うべき。資格試験のモデル式①の単純平均部分は数量情報があれば加重平均をとった方がよいと思われる。モデル式③の受験者数をウェイトに用いた加重平均は数量を用いているが、これは金額が分からないためか。

モデル品目の最後の算式が品目によって異なるが、金額が分からない場合は数量を使うの

か、それとも理由があつて数量を使っているのか。

⇒ 資格試験は、モデル式①の部分は数量ウェイトが入手できないので単純平均を使用し、③は金額ウェイトが入手できないので数量ウェイトを用いている。カーリースは、金額ウェイトが入手できないため、数量ウェイトを使用している。通信教育についても、金額シェアに相当する情報がなかったため、数量シェアを使用している。引き続き使える情報がないか探していくものの、現時点の案としては数量シェアとした。

⇒ 情報がないのであれば仕方がないが、いずれにせよ、モデル式で数量ウェイトを採用している理由を説明するほうが良い。

○ 「ペット保険料」指数の作成に1歳以外の年齢の保険料や猫の保険料を含めたり、「通信教育」に未就学児対象の講座の価格を含めたりと、価格調査対象のカバレッジをなるべく広げる方が良いと考える。総務省調査品目については事務負担の増加もそこまで大きくないのではないかと。

⇒ 価格調査対象の選定は毎月の我々の事務負担も踏まえて検討しているところ。なお、「ペット保険料」については、過去の企業へのヒアリングにより、各年齢で価格改定率が同程度だったということも踏まえ、1歳のみを対象とした。

○ 説明した4品目のCPIウェイトの万分比はどれくらいになるのか。それほど大きいものではないと思われるが。

⇒ 今後代わりうる大まかな試算値であるが、カーリースは5、ペット保険料は4、通信教育は3、資格試験は2。先ほどの事務負担についてのご指摘にも関連するが、ウェイトが小さいものにどこまでリソースをさくかは多少考えて行っている。

○ 説明があつた4品目について、全国统一価格でモデル式を用いて行うことに異論はないが、公開する際のモデル式はもう少し分かりやすく書いた方がよい。

○ 今回の変更は、消費状況の変化に応じて、モデル式の導入やPOSデータを追加するという点ということで理解した。通信教育について、今回採用を考えている企業以外にシェアを伸ばしている企業があるとも承知しているが、それらを採用しないのか。ペット保険について、1歳だけでなく他の年齢も含めることと、猫についても調べることを検討してもよいと思った。カーリースについて、オプションについてもメンテナンスの範囲と同様にヒアリングをして、代表的なオプションを聞いた方が実態に沿うのではないかと。

⇒ 通信教育については今回参照した通信教育市場に関する資料でシェアの高い企業を採用したものの、市場シェアに関する資料は引き続き探していく。ペット保険料については、猫の方がすでに飼育頭数が多いという報道があることも承知しているが、現時点でのペット保険への加入は犬の方が多くということも犬を指定している。今後ペットの種類構成比についても引き続き注視していく。カーリースについては、オプションに係るヒアリングを行うことを検討する。

○ ペット保険料など比較的簡単に価格調査をできるものについてはカバレッジを増やすことを検討していただきたい。

○ 通信教育について、まず、業者を選定して、つぎにその業者の中で売り上げの大きな対象者に限定して価格を調べるという手続きでは、業者間で目標とする対象者に違いがあるときに、価格収集の対象が偏る可能性がないか。例えば、今回選定した業者が低学年（小学校入学前及び小学校低学年）を主たる対象者としているとすると、中学生や高校生に対する通信教育の価格を調査しないことになるけれども、そのことは妥当か。

⇒ 今回の追加品目である通信教育は、家計調査の収支項目分類における「幼児・小学校補習教育」のウエイトが大きくなったことから、このうちの通信教育を分割するものであるため、中学生や高校生向けの通信教育は対象外とした。

⇒ 家計調査で中学生や高校生を対象とした支出の項目がないのであれば、そのような項目を追加するべきではないか。

⇒ 家計調査は全ての支出を対象としており、中学生や高校生を対象とした支出は、「中学校補習教育」、「高校補習教育・予備校」として集計している。追加品目の検討においては家計調査における家計簿の記入内容から特別集計を行っており、その中で幼児・小学校向けのシェアが大きくなったということで追加品目とした。

（「プリンタ用インク」及び「メモリーカード」の指数作成方法について（案））

○ POSデータを使用した指数作成への移行について、POSデータを使用するのに適した品目の中で今回の2品目より支出シェアの高い品目があると考えられるが、今回の2品目を優先する理由は何か。

⇒ POSデータの採用に当たっては、データ購入の継続性、予算、納品スケジュール、調査員の負担軽減等の観点から採用可否を検討している。それらの観点を元に検討を進めた結果、今回はこの2品目を採用することを予定している。

○ POSデータの購入について、調査会社にのみ依存すると制約も出てくる。小売店等から直接POSデータを購入できるスキーム構築を検討してはどうか。

⇒ 調査会社から購入する理由としては、各社から直接購入することに比べてスペック情報のデータが整理されており、指数作成にあたってデータを扱いやすいということがある。POSに限らずビッグデータに関しては色々なところから市場開拓が必要であり、引き続き他のデータソースがないかを検討していく。

○ ヘドニックや他の方法は検討しないのか。固定スペックは5年間スペックを固定してしまうのでリスクがある。固定スペックで各品目を計算してそれを加重平均する方法もある。それらを検討したうえで固定スペックがベストな方法であると示してほしい。

- 小売物価統計調査との価格の差異について、より詳細な分析はできないのか。
- ⇒ 購入しているPOSデータには店舗情報や地域の情報が入っていないため、より詳細な分析は行っていない。POSデータにはネット販売の実績も入っているが、調査員調査は実店舗のみの調査のためカバレッジが異なることが影響していると推察されるが、その差がどれくらいあるかはPOSデータからは分からない。

- 指数算式でなぜ幾何平均を使用しているのか。算術平均など、他の算式がある中で幾何平均を採用した理由は何か。

- POS データを使用するのであれば、固定スペック方式に拘らず、より多くの商品をカバーできる方法を検討してもよいのではないか。モデル式を導入する等の方法もある。

- それぞれの区分やスペックにおいて、よりシェアが高い条件を選定するのはよいが、採用した全ての条件でのシェアが、最終的に全体に対してどの程度になるのかも確認した方がよい。より高い条件を選択したものの、最終的なシェアが低くなってしまいうケースも考えられる。

- 今回見送りになった品目について、POS データのみにこだわるのではなく、ウェブスクレイピングや価格比較サイト等、他のビッグデータの採用も検討した方がよい。現状の調査結果における断層の解消に寄与すると考えられる。

- プリンタ用インクについて、種類と色の組み合わせ（図1-7）を見ると顔料×ブラックの割合が一番高い。であるならば、種類で染料だけを選ぶのではなく、顔料×ブラックのデータも残しておいて内部ウエイト等で調整できるようにした方がよいのではないか。

- メモリーカードについても一つの固定スペックではなく、容量別等の複数の固定スペックを採用してウエイトを使って加重平均することで、より多くの商品を網羅できるようにした方がよいのではないか。

- CPIのウエイトが小さい品目であり、作業負担を考慮するのであれば、検討に時間を掛けるべき品目ではないのではないか。メモリーカードについては技術革新が激しいため、固定スペック方式では難しいのではないか。

- 品目によっては基準改定を待たずに2025年1月から対応してもよいのではないか。
- ⇒ 「プリンタ用インク」及び「メモリーカード」の指数作成方法については、今回いただいたご意見や作成開始により近い時点の市場動向なども踏まえ、具体的にどのようにするか検討してまいりたい。